

バス運賃均一制、早い時期の実施に向けて進める

杉村 岩美町行政の長である西垣町長の任期は本年12月6日までで、2期目に臨むかどうかよりも、1期目3年半の実績を明確にすることが、この時期に大事だ。また、岩美町議会議員も残任期は1年1か月ほどで、今期の総括に臨みつつある時期だ。行政と議会の立場は異なるが、いかなる政策が町民の生活向上につながるのか。行政・議会、共に常に苦悩し、少しでも改善しようとするからこそ、私たちが果たしていかなければならないことだ。100円バスなど、またその話かと思われる方もあるかと思うが、今の時に方向性を作っておきたい。

岩美町の交通環境の現状、郊外型の集落が多い岩美町域で現状に合った安全・安心の町内移動として、岩美モデルを構築したい。岩美町地域公共交通計画の案（以下「計画案」）が、5月10日に示された。全体を通じ現状維持、問題先送りの感が強く、内容では計画策定の意義が感じられない。事業の実施スケジュールの中で運賃負担軽減策の検討があり、シルバー定期補助、運転免許返納者への支援各種、運賃均一制などとあり、令和3・4年検討準備、令和5・6年関係者調整、令和7年試験運用・本格運用とされているが、問題先送り、取組が遅いと言われて反論できない。

なぜ鳥取市で100円バスが運行できていて、当町ではできていないのか。

町長 鳥取市の100円バスは従来の民間路線とは別に、市街地のみで運行され、運行主体は民間事業者だが、運賃均一制を導入し、赤字を市が負担している。

岩美町の民間路線バスは広域的な国庫補助路線で、既存の路線を生かした運賃の均一化の検討を進める。

杉村 町内の民間路線バスは鳥取市を起点にし、単に鳥取市内だけの循環する100円バスとは、そのまんま該当しない。しかし、利用者の立場からすると、100円バスが市内にはあって、岩美町にはない。町民目線で議論すべきだ。

長野県の飯綱町では、隣の長野市に至るバス路線で飯綱町内は200円の定額としている。長野電鉄バスは協力され、日本交通は協力なされていないということか。どうして均一料金制が長野でできて、鳥取はできていないのか。

町長 対距離区間制との運賃の差額を飯綱町が補填している。補填は、事業者の調査を基に算定を行っている。鳥取運輸支局は、国庫補助路線の補助額を算定するには、毎日の乗降場所・運賃収入等を集計するなど、正確な運賃差額を算定する必要があるとしている。町で全数を調査するのは非常に難しく、事業者も毎日のデータを集計する作業を運輸業務に加えてするのは困難で、事業者の協力が無い。長野と同じやり方は困難だ。

杉村 運輸局が正確な差額を算定するべきだとし、毎日の乗車状況を確認しなければならないとしたのは、非常にハードルが高い。

町営バスを100円バスにした場合、バス会計への繰出金は年間実質70万円程度の負担

増とあった。現在も変わっていないか。

町長 変わりはない。

杉村 岩美町域において料金均一制としての100円バスについて、町内論議を広範にし、町民全体の問題としていただくためにも、町営バスで先行試行を令和4年度に行いたい。

町長 町営バス路線と民間バス路線との運賃体系が異なることになり、地域において格差が生じる。競合する区間は整合性が取れなくなる。令和4年度からの先行実施は考えていない。やるとするならば、同時にできる方法を模索してやりたい。

杉村 令和2年3月に、乗降のカウントについての協力で、運転手さんの負担があるとして、日交バスと相談し、検討ができる土台に乗るのであれば考えていきたいとしている。1年以上経過しているが、民間路線バスの乗降カウントは行えていないか。

企画財政課長 民間事業者による乗降調査は、国の補助金を算定するため毎年度1回のみ行っており、変わらない。ただ、令和2・3年度にかけ、交通計画案を作成したが、その資料とするため、職員が民間路線バスに乗車し調査した。平日1日40便の運行で、全てに乗車して確認するため、令和2年8月17日から21日にかけて利用者の集計を行った。また、土日も同じように2日間調査した。

杉村 その職員の調査は、均一料金にした場合に、どれぐらいの補助金額になるのかという算定ができる調査か。

企画財政課長 算定もできるかもしれないが、コロナウイルスの影響等もあり、令和元年に比べ10%以上の乗車人数の減となっており、この数字は使えんかなということで、計画の中でもこの数字を使うのは見合わせた。

杉村 均一制とし、多く利用していただきたい。コロナ禍という前提で、昨年8月の調査の数字で参考として作るべきだ。

町長 本当に大ざっぱな数値であるが、どれぐらい影響するのは、算定できないこともない。しかし、それが本当に正しい数値なのかは非常に示しづらい。あえて積算等をしていない。毎日乗って、確実にこの数値が減収額ですよということが出るなら、また別だが、今の段階では示していない。

杉村 町長の言われるとおり、正しい数字は示せない。今現在、国県町は民間路線バスに維持の補助金を出しているが、年に一遍だけの調査をし、1年間分の補助金を公費から出している。確かにカウントするのは難しいが、本当の数字は出るわけがない。それをもってなかなか計算は難しいという論議なら、いつまでたっても前に進まない。

町長 バス運賃の均一制は、100円と決めているわけでないが、できるだけ早い時期の実施に向けて、事業者と協議し、改めて議会に相談する。

老々送迎のサポカー補助は実現に向けて検討を進める

杉村 1年後の2022年6月に、自動ブレーキがついた安全サポート車（以下「サポカー」）に限定した免許の施行が予定されている。後づけの高齢者ペダル踏み間違い急発進抑制装置設置費の4万4,000円を、国2万円、町1万円の助成を行い、個人負担は1万4,000円程度とする制度を岩美町は本年度から始めた。

しかし、サポカー補助は全町民のために全額補助すべきだ。それは受益が当該高齢運転手のみではなく、交通環境を共有する岩美町域の方全体に波及すると考えるからだ。

計画案に、買物において自分で運転する割合は約73%、家族や知人の送迎を受ける割合は約14%、合わせて86%を超え、いかに岩美町域で自家用車の利用が重要な位置を占めているかが、計画案からも理解できる。

しかし、令和3年度専決補正予算で、交通安全対策特別交付金を受ける団体となり、事故件数の増が説明された。安全・安心の町内移動ができる岩美町域を少しでも進めたい。

本年度から開始したサポカー補助の実績は。

総務課長 現在のところない。

杉村 町内業者は、ペダル踏み間違い急発進抑制装置設置の対応は可能か。

総務課長 町内事業者は認定を受けていない。鳥取市内等の事業者にお願いすることになる。

杉村 安全・安心の町内移動を推進したい。全額補助を行い、対象者100%の町を目指したい。

町長 受益者に一定の負担をお願いしたい。

杉村 計画案に、家族や知人の送迎を買物や通院で受ける方が相当数ある。例えば70歳以上のご夫婦がおられて、片方の方が送迎されたりする、老々送迎は、全額補助を先行して行いたい。

町長 高齢者ドライバーが免許をお持ちでない高齢者の方を、共助で送迎する事例は承知している。負担は、何らかの形で軽減すべきだ。町が行っている4分の1負担を検討したい。該当するのかどうかを検討し、実現に向けて検討を進めたい。

杉村 町内の高齢の方にも、安心・安全の町内移動をしていただきたい。ただ、サポカーが全部安全であるということは全く思っていないが、ちょっとした踏み間違いを少しでも補助していただける車に乗っていただきたい。岩美町モデルの中の一つとしたい。

ドライバー確保は国県事業者と歩調を合わせる

杉村 昨年10月、ドライバー不足が深刻な運送業界への就職を考えてもらい、若手や女性の人材を確保しようと、商工会議所と県などが運送業体験企画を実施され、若い女性の方がバス車両の乗務体験をされているところがテレビのニュースで報道され、新聞にも掲載され。相当な違和感を持った。

大型車両を操る体験をされて面白いと感じる方は確実にある。しかし、そのような職種に若い方などに就いていただいて、10年後か20年後、30代40代になられたときに、車両の自動運転が普及してきました。職種の転換をお願いしますと雇用主は言わなければならないような状況を見込む。同時に、そのような無責任な状況は想像したくない。

勿論、中期的な将来、職種の転換が見込まれる、職業としての選択肢が狭まることをご承知いただいた上で、どうしてもしたいという方まで排除するものではない。しかし、公共交通のドライバー確保は、ドライバーとなられる方の将来も考えながら進めるべきだ。

町長 ドライバー確保策は、若い世代を対象というものではない。現状のドライバー不足の中で、今後の地域の公共交通を維持するため記載したもので、国県事業者等と歩調を合わせる。

杉村 今は運転できていると思っている、また10年後も健全に運転していきたい、そして役立つのであれば運転業務に就労してみたい、そのように考えておられる世代の方は確実におられる。それを踏まえ、ドライバーの確保は進めるべきだ。

町長 杉村議員の予測や思いとは違い、私はそう考えてない。現状のドライバー不足を、どう対応していくのかということで、今回の計画案に確保策について記載した。

岩井軌道跡地利用は検討

杉村 岩井軌道跡地を活用して岩美駅東側に駐輪場の整備を検討してみてはどうか。

町長 岩井軌道の跡地利用は、現在、活用方法を持ち合わせてないが、引続き検討する。